

1 実践の目標

ワカメの生産に取り組むことで、生産者の苦労や市場の動向を理解するとともに、商品の認知の拡大について考えを深め、地域貢献に向けての意識を高める。

2 実践の概要

(1) 漁業者と水産研究所の職員による出前授業

阿南市出島海岸沖でのワカメ養殖事業を始める前にG Tを招聘し、ワカメの生態や新鮮でおいしいワカメの選び方、養殖の苦労などの話を聞いた。

(2) 種つけの実技講習

3・4年生が中島漁港に出向き、ワカメの種を植え付け、出島海岸にロープを敷設した。

(3) 地域を巻き込んだ販売戦略

ワカメの商品の内容量や生産者表示、賞味期限等の表示の必要性から、耐水性のラベルを考案するとともに、ネーミングは「山口絶品ワカメ」に決定した。

地域に周知するために、事前の学習として手作りチラシを作成することとなり、商品についてどのように伝えればよいかについて、意見を出し合い制作に取り組んだ。また、販売体験を行うにあたり、必要な接客、挨拶、お礼の仕方について学ぶために、百貨店での研修を実施した。

(4) 販売体験から学ぶ

折り込みチラシの効果と高品質の評価から、2,000袋以上のワカメを地域の方々とともに販売を行い生産から収穫、販売まで消費をめぐる物と金銭の流れを理解した。



【出前授業】



【ワカメの収穫】



【販売体験】

3 実践の成果

児童が地域に受け入れられ、特産物の販売を体験するという活動は確実に地元を巻き込み、地域創生の息吹を感じることができた。

本取組は断片的な体験ではなく、生産（栽培）活動から社会貢献までを体感させる中で、将来の消費者力の育成につながる取組となった。

また、これらの取組を行うことによって、子供たちが主体的に活動するとともに、お互いの良さを認め合い学び合うことで自己肯定感がより高まった。

今後とも地域と密接につながり、金融・金銭教育やキャリア教育との関連も含めた、より実践的な取組にしていきたい。